



「魅力」あふれるまち

A City Full of Charm

農林水産 商工観光 都市形成 公園・緑地 情報・交流

地域の魅力を生かし、地域経済を活性化

Leveraging the Charms of the Area to Stimulate the Local Economy



星降る映画館（草津川跡地公園de愛ひろば）

Kusatsu City developed as a transportation hub, and even today, it boasts highly convenient access, with National Route 1 and the Keiji Bypass passing through the city as well as the Kusatsu-Tanakami Interchange on the Meishin and Shin-Meishin expressways. Thanks to this, large factories and other businesses are located in Kusatsu's suburbs, making the city a hub of industry as well.

In addition, the urban area centering on JR Kusatsu and Minami-Kusatsu stations coexists with local natural beauty such as Lake Biwa, and Kusatsu is thus also renowned as a great place to live. Kusatsu is aiming to make the city even more attractive through such means as leveraging local resources and the further development of Kusatsugawa-Atochi Park.



北山田のビニールハウス群

愛彩菜生産者の皆さん



未来につなぐ草津の農業

Kusatsu's Agriculture for the Future

古くから良質な近江米の産地で、近畿最大級のビニールハウス群がある草津市。

「ベジクサ☆次世代マルシェ」の開催や就学前教育・保育施設の子どもの対象に、給食の残りかすを活用した循環型農業※「食農教育（はたけのこ体験事業）」にも取り組んでおり、「農」を通じた人や未来へのつながりの拡大を図っています。

※袋栽培→収穫→給食で食べる→給食の残りかすを利用した土壌再生



ベジクサ☆次世代マルシェ



袋栽培で育てた山田ねずみ大根

専業農家の三姉妹の長女として育ち、結婚後に夫が農業の道を選んでくれたことから、私も子育てをしながら一緒に働き始めました。コマツナやミズナなどの軟弱野菜のほか、ニンジンやメロンも栽培しています。障害者の方などが農業分野で活躍する、農福連携の取り組みを知ったことがきっかけで、今は市内4つの福祉事業所の方に仕事を依頼しています。笑顔いっぱいの会社をめざして、良いと思うことを取り入れながら、成長していきたいです。



（株）横江ファーム
よこえ ひでみ
代表取締役 横江 秀美さん



交流から生まれる“まち”への関心

Exchange Leads to People Taking an Interest in Their Community



UDCBKで開催された都市デザインマネジメントスクール

複雑化する社会では、さまざまな未来の選択肢を考える必要があります。UDCBKでは、複雑化する課題に対して、産学公民が多様な知見を持ち寄り、未来のまちづくりを進めています。

また、友好交流都市である福島県伊達市と草津市の子どもたちが交流し、お互いのまちを訪れ、歴史や文化などに触れることで、自分のまちの魅力に気付く「みらいKIDSにぎわい交流事業」を実施するなど、姉妹都市などとの都市間交流や、市民の国際理解を進める取り組みを展開しています。



「みらいKIDSにぎわい交流事業」でSDGsを学ぶ子どもたち

デジタル技術で行政サービスをより豊かに

Enriching Local Government with Digital Technology

この十数年のICTの進展は目覚ましく、スマートフォンやタブレット端末が急速に普及し、人々を取り巻く情報環境や情報をやり取りする手法が大きく変化しました。国にDXを推進するデジタル庁が発足したことで、自治体のDXも注目されています。また、AIなどの先進技術をあらゆる産業や社会生活に取り入れ、新たな価値が創造されることにより、誰もが快適で



電子申請サービス

活力に満ちた生活を送ることがで

きる「Society5.0」の実現に向けた「スマートシティ」への取り組みが、国内外の各地で広がりつつあります。

草津市では、将来にわたり持続可能で最適な行政サービスの実現を図るため、市の課題に対して、ICTを積極的に活用し、市民サービスの向上と地域社会の維持・発展、さらに行政サービスの効率化に取り組んでいるほか、市ホームページや広報紙に加え、LINEやXをはじめとしたSNSなど、多様な媒体を用いた行政情報の発信に努めています。



© おおのこうすけ / 新潮社



多様な媒体と手段を活用し、行政情報を発信



ゆめほんDAY



草津小市



“まちなか”に新たな魅力でにぎわいを

New Attractions Bring the Bustle to Downtown

JR草津駅周辺を中心として広がる中心市街地に、新たににぎわいや人の流れを創り出すために、niwa+、草津川跡地公園de愛ひろば、キラリエ草津、YMITアリーナやインフロニア草津アクアティクスセンターなどの整備を進めてきました。

また、東海道草津宿本陣通りの歴史的な街並みを守り、その魅力を高めるため、東海道沿線の無電柱化、建物の修景や空き家・空き店舗への新規出店支援を行い、新旧のまちのスポットを回遊し、人が集うまちづくりを進めています。



草津まちづくり株式会社

西澤 奈都美さん

Profile

地元の大学でデザインを学んだことをきっかけに、まちづくりに興味を持つ。9年前に草津まちづくり株式会社に入社。現在は、東海道・草津宿エリア（草津川跡地公園de愛ひろば～立木神社までの街道沿い）のテナントミックス事業に関わる。

自分が“ごきげん”になれること

「草津のまちなかは、新しいものや便利なものが集まり、ますます、にぎやかになっています。一方、少し歩いた先にある、宿場町の落ち着いた雰囲気があるエリアも魅力の一つだと考えています。歴史の趣をそのままに、味わい深い建物が残るエリアで、何かやってみたいという人を応援するため、人とまちをつなぐお手伝いをしています」と西澤さん。

「弊社の役員をはじめ、多くの方々がまちの未来を思い、まちの基盤をつくってこられました。私は、そうした力強い基盤に支えていただき、さまざまなプロジェクトを動かしています。その上で、私は、まちづくりを考える時に『自分が“ごきげん”になれること』を大切にしています。まずは、私自身が本当に良いと思えることを大切にし、その共感の輪が広がることで、小さな幸せがだんだんと、点から線、線から面へと少しずつまち全体へと広がると考えています」。

共感の輪が広がる

まちづくりをめざして



▲明治時代、郵便制度の設立に関わった山内頼富氏の旧邸宅

そんな西澤さんが今、手掛けているのが、令和7（2025）年春にオープン予定の旧山内邸の改修事業。「建物の所有者さんが長年大切に守ってこられた建物を改修させていただき、店舗やレンタルキッチン・スペースなど複合施設を立ち上げる予定です」。

何気ない暮らしの幸せや豊かさを感じられるまち

「私はご近所さんとあいさつを交わしたり、お気に入りのお店が身近にあったり、何気ない暮らしの幸せや豊かさを感じられる、そんな愛着ある草津のまちをめざしています。そのため、この場所は地域と人がつながる場所にしたいと思い、人や物を固定せずに、緩やかに人が交わる“かわりしろ”“余白”となる空間をつくっています。

ここをきっかけに、さまざまな人が地域とつながりを持ち、何かやってみたいと思い、実現できるよう、これからも、まちづくり会社にいる人として、このまちで面白いことをしたい人たちの、縁の下での力持ちになりたいと思います」。

大切にされてきたものに宿る美しさを感じます

▲旧山内邸のかまど